

もしもに備えて今できること
西池小学校 五年 大崎 愛来

今、もしも自然災害が起こったら、落ち着いて自分の身を守る行動がとれるでしょうか。わたしは、正直でぎないと思います。今年の夏休み、わたしの住んでいる宮崎県で震度5の地震が起きました。そのとき、初めて命の危機を感じ、それと同時に、もしもに備えることの大切さについて、身をもつて経験しました。

この経験を無駄にしないためにも、自然災害について、もっと向き合ってみたいと思います。その一つである土砂災害について目を向けることにしました。土砂災害においては、わたしは小学四年生のときに、社会科の授業で学習したり、実際に宮崎土木事務所の方がたが学校に来て「土砂災害防止教室」が行われたりしました。土砂災害もまた、いつ起こるか分かりませんが、実際のひ害映像を見たり、土型を使って土砂が流れていく様子を見たり

したことで、おそろしさを目の当たりにしま
した。

土砂災害を防ぐために、さまざまな施設整
備もされていきます。それは、土石流対策くの
ための、砂防えん堤や、がけくずれ対策くの
ための、待受ようへき工や法あく工などです。
わたしは、実際に法わく工の工事を見たこと
があります。しや面を工事される方がたも
とても大変そうでした。わたし達の命を守る
ために命がけで工事してくださってすごいな

と実感しました。

土砂災害を食い止めるには、原因を追究し、
わたし達の生活を見直すことが大切だと思い
ます。土砂災害が起こりやすくなったのは、
地球温暖化による二さん化炭素の増加が原
因だ。たり、森林はっさいが原因だ。たりし
ます。わたし達ができることは、使わな電
気をこまめに消すこと、冷だんぼうの設定温
度に気を付けることなど、一人ひとりのちよ
とした行動が大事だと思います。また、み

んなでもう少し森林を気にかけることも大切
だと思えます。森林のじゅんかんをよくする
ためにも、木をきる、きつた木を新しく植え
て、育てる、そして成長した木をきって活用
する、このじゅんかんを守り続けることが大
事です。森林も元気でいられるし、土砂災害
も防止できて、人もかんきょうも守ることが
できます。

もしもに備えて、わたし達に今できること
は何かあるか、この夏休みに家族会議をしま

した。まずは、わたし達の住んでいる地区に
どのようなきけんがあるか、命を守るために
どのようなひな人行動をとるべきか、ハザー
ドマップを見て、家族で確にんしました。ま
た、お父さんお母さんのけい帯番号を記録し
たり、公しゅう電話の使い方を覚えたりしま
した。また、水やひなん食の見直しもして、
家族で万が一に備える準備もできました。あ
と、日ごろから地いき活動に積極的に参加し
て、自助、共助、公助の三つの連けいをわす

れずに生活することも大事だと思いました。
人は一人では無力であり、支え合って生きています。万が一のときこそ力を合わせて乗りこえていける、そんな関係をみんなできづけたらいいなと思います。そして、いつでもなときも、だれ一人欠けることなく、尊い命を守り抜きたいです。